

[REDACTED]

わからない語句が教科書にあったら、「辞書」や「百科事典」などで調べ、調べた内容を「ノート」に書き写しておくことも、「理解」の上で大切です。

偏差値が 50 以下の科目は、教科書に書かれてある内容がよくわかっていない場合が多いと私は思います。50 以上の偏差値を取りたければ、学校や開倫塾の先生が行う授業を誰よりも熱心に聴き、教科書に書いてある内容をすべて確実に「理解」することです。

教科書やノートなどの忘れ物、授業中のおしゃべり、居眠りなどはもっての外です。このような「だらしなさ」から抜け出せば、偏差値 50 突破は確実です。

Q：「だらしなさ」から抜け出すには、どうしたらよいですか。

A：自ら鍛錬(たんれん)することです。自ら鍛錬し続ける以外にありません。学校や開倫塾は自分自身を鍛(きた)え上げる場所であると考え、「だらしなさ」から自分の力で抜け出して下さい。

Q：このほかにも、偏差値50突破の方法はありますか。

A：偏差値 50 以下は文字を読む量が不足している場合が多いので、新聞を毎日 20 分以上読む習慣を一日も早く身に付けることをお勧めします。

3 . 偏差値60突破のための学習方法

Q：偏差値60突破のためには、どのようにしたらよいでしょうか。

A：「理解」「定着」「応用」という「学習の三段階理論」の 2 番目に掲げている「定着」を徹底的に行うことで、偏差値は 60 を突破します。

Q：「定着」とは、どういうことですか。

A：一度「理解」したことがよく身に付いているということです。人間は誰しも、一度「うん、なるほど」とその時には「理解」したことで、放っておくと身に付かないことが多いものです。そこで、意識的に身に付けることを行う必要があります。私は、これを「定着のための作業」とよんでいます。

Q：「定着のための作業」ですか。この「作業」は、授業中に先生の指示で行うのですか。

A：学校や開倫塾の「授業中」は、先生は、生徒や塾生に「うん、なるほど」と「理解」してもらったり、「これはどのようなことか」と考えてもらったりするために大部分の時間をつかうので、「定着のための作業」をする時間が極めて取りにくいのが実情です。そこで、「定着のための作業時間」は皆さん一人ひとりが自分で工夫してとる以外にはありません。「定着のための作業時間」を自分の力で確保できるかどうか、偏差値 60 突破の「カギ」となります。

Q：「定着のための作業時間」は、どのように確保したらよいですか。

A：学校や開倫塾の「授業時間」と「食事の時間」「睡眠時間」を除いた時間の中から、どのくらい確保できるかを自分で工夫して下さい。「定着のための作業」は、コツさえ掴めれば、どんな場所でもどんな短い時間でもできます。コマ切れの時間であっても上手に工夫して、「定着のための作業時間」をできるだけ長く確保して下さい。

Q：「定着」の具体的内容について説明して下さい。

A：3つあります。

- (1)一度「理解」した内容が、何も見ないでスラスラ口をついて言えること。
- (2)一度「理解」した内容が、何も見ずに正確に「楷書(かいしょ)」で書けること。
- (3)教科書にあるくらいの基本的な「例題」や、簡単な問題は、問題を見た瞬間に条件反射で答えが出せること。

この3つが「定着」の内容です。教科書やノートをその日のうちに読み直し、何も見ないでスラスラ口をついて出るまでにすること。何も見ないで「楷書」で書けるまでにすること。何も考えずに問題を見た瞬間に答えられるまでにすること。これは、頭がよい・余りよくないという問題ではなく、確実にやったか・やらなかったかの問題ですので、「定着のための作業時間」さえ確保できれば、開倫塾の塾生の皆さんでしたら誰にでも可能です。

Q：家ではなかなか勉強する気になれないのですが。

A：開倫塾では、授業で使用していない教室を「自習室として無料で開放」していますので、校長先生から許可証をもらい、そこで勉強して下さい。(ただし、夜10時30分以降は、どんな理由があっても塾生は全員帰宅して下さい。開倫塾では、防犯上の理由から夜10時30分以降の居残り勉強は絶対禁止です。それ以降は家庭でやって下さい。)

Q：ほかにも偏差値60突破の方法がありますか。

A：偏差値を60以上にするには、文章を読んで考える能力を高めねばなりません。一番よいのは、新聞を毎日40分以上読んで考える習慣を身に付けることです。

4. 偏差値65~70突破のための学習方法

Q：偏差値を65~70以上にしたいのですが、どうしたらよいですか。

A：「理解」「定着」「応用」という三つの段階の三番目にあたる「応用」力を身に付けることです。「応用」とは、希望する学校に合格できる点数をとることを意味します。

「得点力」をつける一番よい方法は、問題練習です。そして、ここで最も大切にしたいのは、問題を解き終えた後に間違えた問題を分析することです。間違えた原因が「理解」不足にあるなら、「教科書」や「辞書」、「参考書」を参考にしながら、「うん、なるほど」と「よくわかる」まで丁寧に勉強し直すことです。また、「定着」不足で間違えたのであれば、定着のための作業を確実に行うことです。そして、「応用」力不足なら、問題練習をより多く行うことです。

このように、誤った答えを分析する「誤答分析」をお勧めします。

5. おわりに

Q：最後に一言どうぞ。

A：偏差値が低いと合格できる学校は少なく、偏差値が高ければ高いほど合格できる学校の幅が増します。人生における選択肢(せんたくし)が多いことは、人生における可能性が大きいことにも繋がりますので、大いに工夫しながら勉強し、偏差値を上げて下さい。

最後に、どうしても勉強が手につかない人に一言。勉強をするときは得意科目からスタートし、勉強に弾みをつけてから苦手科目に取り組んで下さい。得意科目をめいっぱい勉強し、とりあえず何科目かだけでも偏差値60以上にしましょう。